STI Foods Holdings

2024年12月期 決算説明会資料

東証スタンダード（証券コード：2932）

IRメール配信登録
https://www.magicalir.net/2932/mail/index.php

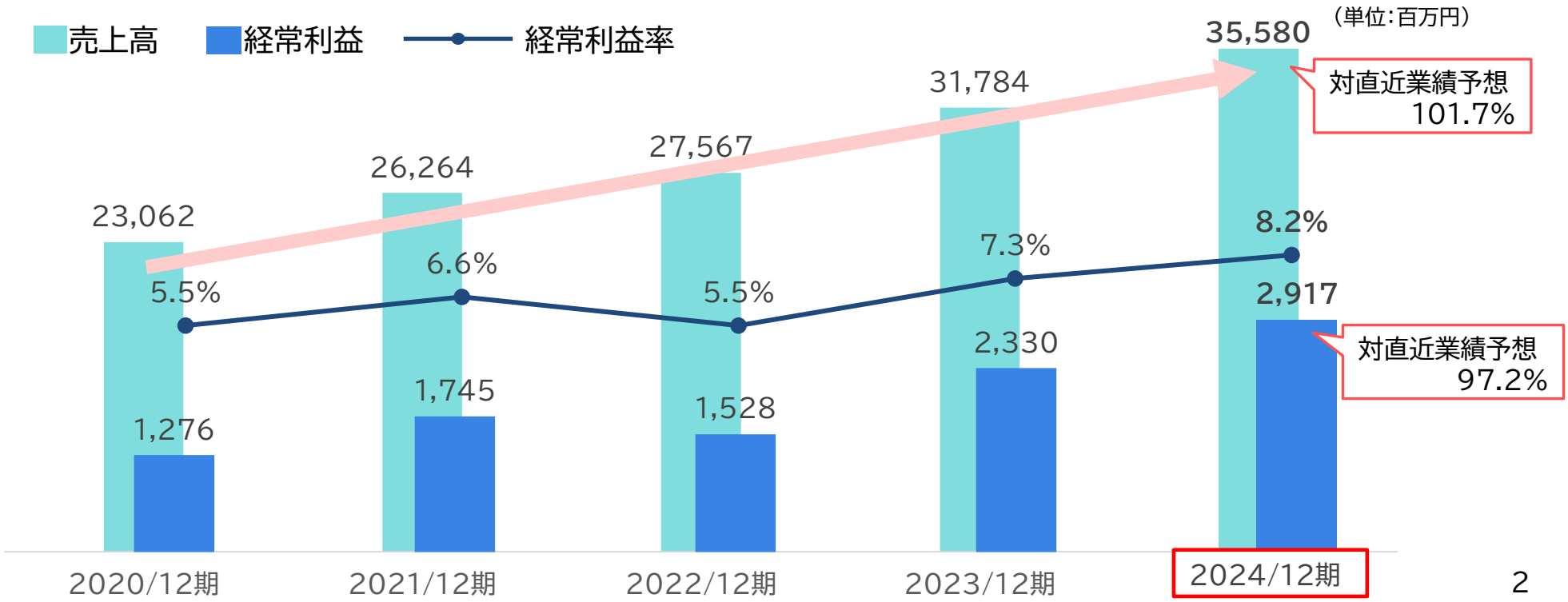
2025. 2. 13

決算概要

通期業績の推移

- デイリー惣菜の既存商品リピート購入、新商品の投入効果により販売個数増加
- 販売個数増加による生産効率の向上により利益率上昇

	売上高	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
2024/12期	**355.8億円**	**29.1億円**	**16.8億円**
2023/12期	317.8億円	23.3億円	15.6億円
2022/12期	275.6億円	15.2億円	10.0億円



連結損益計算書

（単位：百万円）

	2023/12期 実績	2023/12期 売上比	2024/12期 実績	2024/12期 売上比	前期比	増減額
売上高	31,784	-	**35,580**	-	111.9%	3,796
売上原価	22,952	72.2%	**25,627**	**72.0%**	111.7%	2,674
売上総利益	8,831	27.8%	**9,953**	**28.0%**	112.7%	1,121
販売費及び一般管理費	6,525	20.5%	**7,052**	**19.8%**	108.1%	526
営業利益	2,306	7.3%	**2,901**	**8.2%**	125.8%	595
経常利益	2,330	7.3%	**2,917**	**8.2%**	125.2%	587
特別損失	47	0.1%	**272**	**0.8%**	574.2%	225
親会社株主に帰属する当期純利益	1,562	4.9%	**1,685**	**4.7%**	107.8%	122
EPS（円）【株式分割反映※】	263.72【87.91】	-	**284.40【94.80】**	-	107.8%	20.68【6.89】

※当社は2025年1月1日を効力発生日として、1:3の株式分割を実施しております。

2024/12期：主に株式会社STIミヤギの常温食品（缶詰等）生産設備を中心とした固定資産に係る減損損失

連結貸借対照表及び連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表

（単位：百万円）

	2023/12期末	2024/12期末	前期比	増減額
流動資産	10,294	**11,064**	107.5%	770
うち現金及び預金	4,046	**4,226**	104.4%	179
固定資産	4,807	**8,219**	171.0%	3,412
うち有形固定資産	4,223	**7,651**	181.2%	3,427
資産合計	15,102	**19,284**	127.7%	4,182
負債合計	7,655	**10,899**	142.4%	3,243
流動負債	6,161	**7,560**	122.7%	1,398
固定負債	1,494	**3,339**	223.4%	1,844
純資産合計	7,446	**8,385**	112.6%	939
負債・純資産合計	15,102	**19,284**	127.7%	4,182

自己資本比率：2023/12期末 49.3%　2024/12期末 43.5%

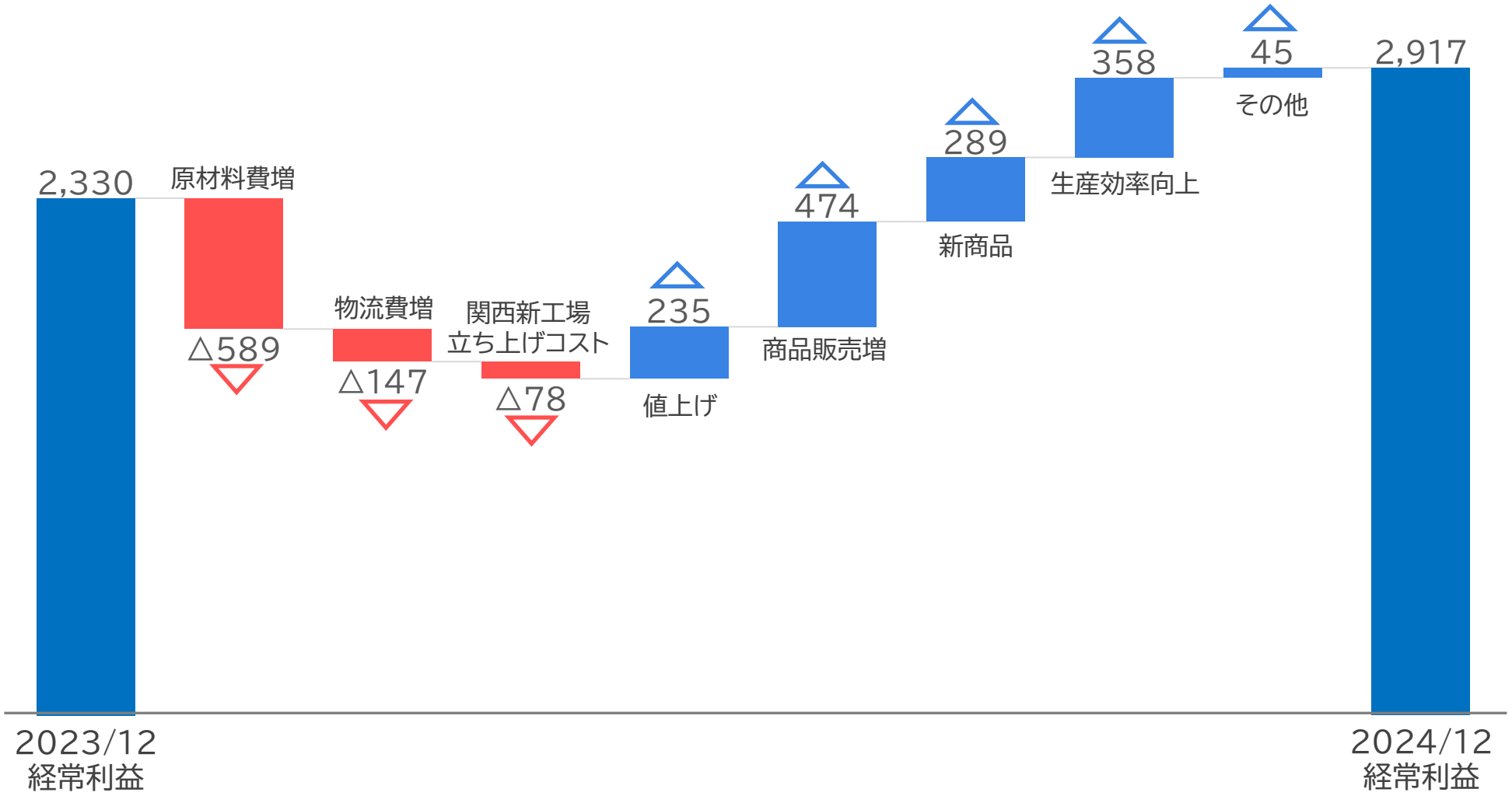
連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	2023/12期	2024/12期	増減額
営業キャッシュ・フロー	3,065	**3,231**	165
投資キャッシュ・フロー	△459	**△3,489**	△3,030
財務キャッシュ・フロー	△1,258	**417**	1,675
現金及び現金同等物の期末残高	3,996	**4,176**	179

経常利益増減分析

- 4Qにおいてカップデリの原材料に使われる生鮮野菜の価格が急上昇
- 値上げしにくい環境下で、販売数量増加、生産効率向上により増益



重点施策

生産キャパシティの強化および商品ジャンル拡大

国内生産キャパシティの強化

■ **STIミヤギデイリーラインおよび関西新工場の通年稼働により、生産能力が20%超アップ**

✓キャンペーンやメディア露出による需要急増時の生産調整が不要

✓関西、中四国地方における最適な物流の構築

✓生産拠点の選択と集中による製造最適化

新ジャンル商品の開発

■ **パッケージ、販売温度帯の組み合わせによる横展開**

✓ジャンルを変えた新商品化による既存商品グループの強化

ex:おにぎり具材シリーズの小売商品化など

味の浜藤の株式取得による子会社化

魚に特化した100年の歴史あるブランドによる小売展開

■ **老舗ブランドの世界展開**

✓100年を超えて評価されてきたブランドを使い
和食の小売りをグローバルマーケットに展開

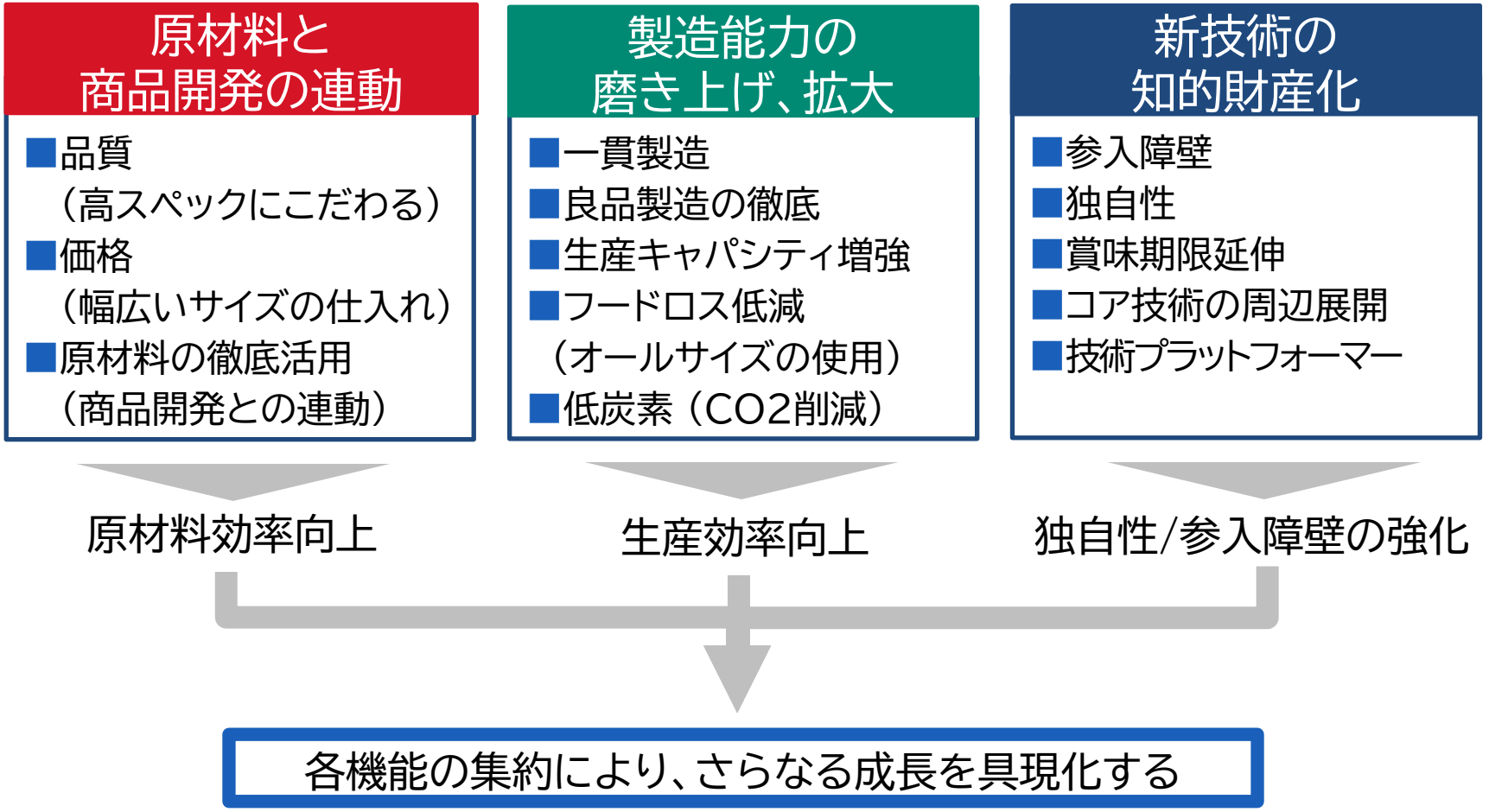
■ **原材料調達および製造面のシナジー**

✓味の浜藤の得意商品に当社グループの
調達力/技術力/生産力を注入することにより
今後の事業拡大を促進

※商品イメージ

定性的重点方針

■原材料、開発、製造、知的財産に関する各機能が事業への貢献を追求することで、より強い企業集団を作り上げる



■国内売れ筋商品をベースにパッケージ、温度帯を組み合わせた新ジャンル小売商品/グローバル商品の開発

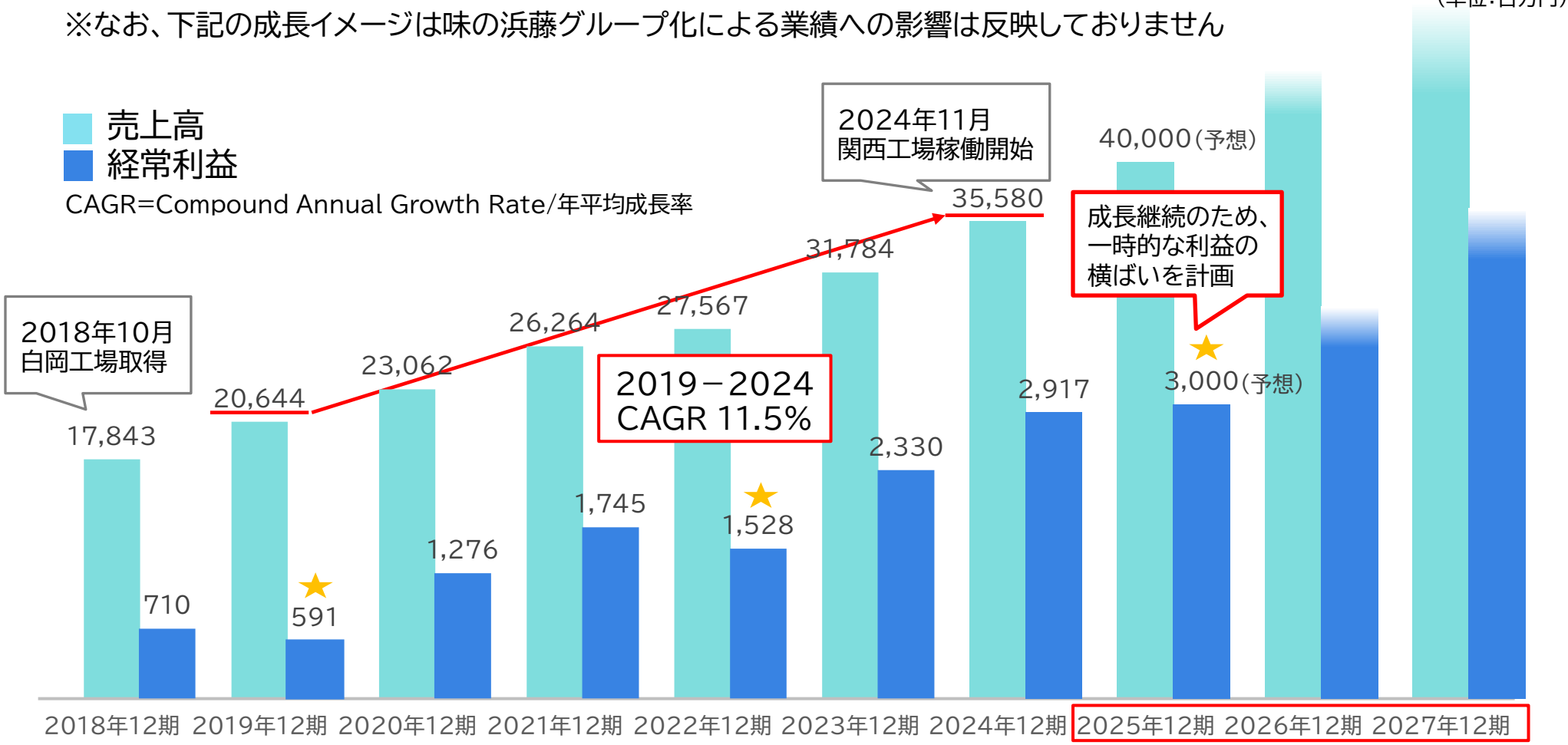
2025年12月期 業績予想

これまでの業績推移と今後の計画

- 関西新工場の稼働に伴い、生産体制の再構築、積極的な新商品開発へ取組む、また2025年は事業全体の成長を継続するための確認・修正を実施する年とする
- 売上はリニアに伸長を続ける一方、利益の伸びは一時的に横ばいとする計画

※なお、下記の成長イメージは味の浜藤グループ化による業績への影響は反映しておりません

（単位：百万円）



成長イメージ

２０２５年１２月期　通期業績予想

- 関西新工場、STIミヤギデイリーラインの通年稼働により増収
- 将来の利益成長に向けての確認・修正の年と位置付け、 一時的に利益は横ばいとする計画

※下記数値に味の浜藤の当社グループ化による業績への影響は反映しておりません

	２０２４/１２期		２０２５/１２期		
	実績	売上比	業績予想	売上比	前期比
売　　上　　高	35,580	-	**40,000**	-	112.4%
営　業　利　益	2,901	8.2%	**3,000**	**7.5%**	103.4%
経　常　利　益	2,917	8.2%	**3,000**	**7.5%**	102.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,685	4.7%	**1,950**	**4.9%**	115.7%
ＥＰＳ（円）	94.80	-	**109.68**	-	115.7%

株主還元方針

株主還元方針

- 2025年1月1日を効力発生日とし、**1:3の割合**で株式分割を実施
- 2024年12月期は期末配当80円の予定、中間配当との**合計120円**
- 2025年12月期は前期と同額の**年間40円**(中間配当20円、期末配当20円)

【配当金】	2023/12期	2024/12期	2025/12期 【株式分割反映前】	2025/12期 【株式分割反映後】
1株当たり 年間配当金	90円 (普通配当70円) (記念配当20円)	120円 (中間配当40円) (期末配当80円)	120円 (中間配当60円) (期末配当60円)	40円 (中間配当20円) (期末配当20円)

- 年1回の株主優待は継続の方針

【株主優待制度】

毎年12月末日の年1回、3単元(300株)以上所有の株主様に
株主様限定の当社製品を贈呈

※12月末現在の当社株主名簿に記載された300株以上保有の株主様のうち、
継続して1年以上保有する方を対象といたします。

APPENDIX

会社概要/事業内容

会社概要

社　　名	株式会社STIフードホールディングス	設　　立	2017年11月(創業1988年12月)
本　　社	東京都港区南青山一丁目15番14号	従業員数	276名(他、臨時雇用者 1,039名) ※2024年12月末日現在、臨時雇用者は1日8時間換算の従業員
代 表 者	代表取締役社長　十見　裕	上　場　日	2020年9月25日(東証スタンダード)

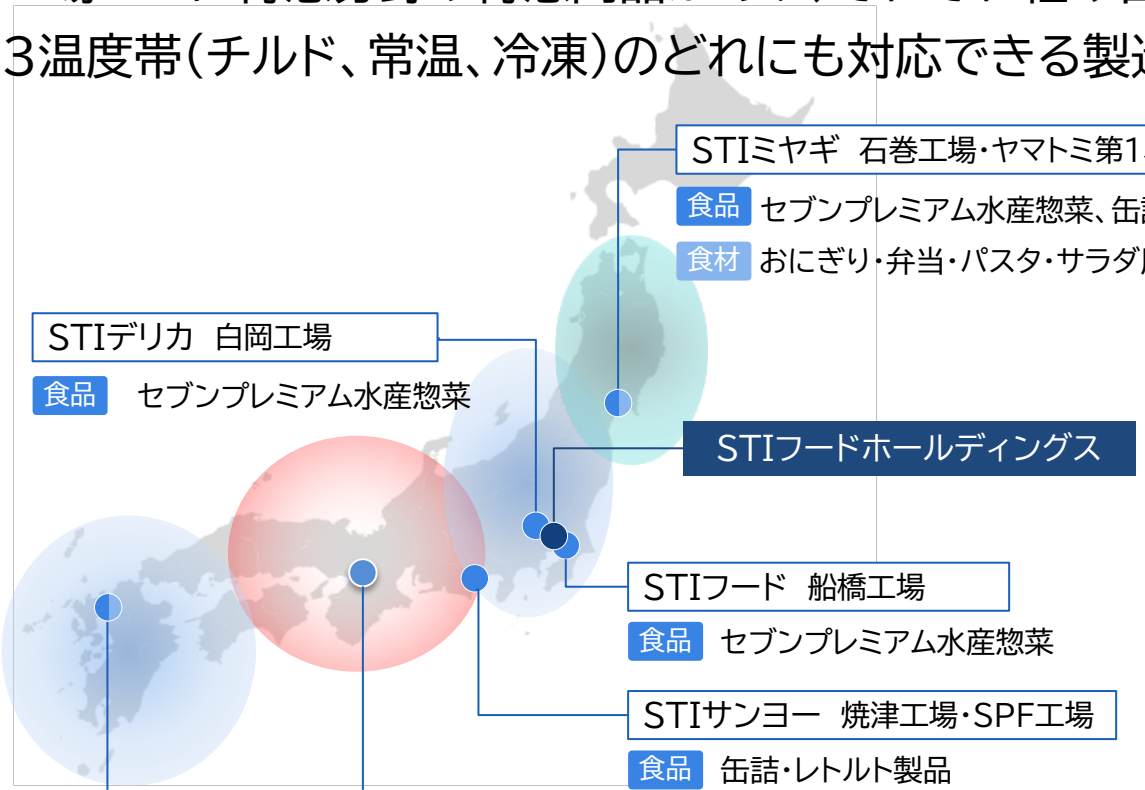
事業内容

当社グループでは、水産原料の素材の調達から製造・販売までを一貫して行う食品製造販売事業を展開

製品分類	主な事業内容	会　社	製造製品例
食　品	主にコンビニエンスストア向け水産惣菜の製造・販売、水産原材料を使った缶詰・レトルト製品等の製造・販売	当社 STIフード STIデリカ STIエナック STIミヤギ STIサンヨー STI AMERICA Inc. STI CHILE S.A.	
食　材	主にコンビニエンスストア向けおにぎり・弁当・パスタ・サラダ等に使用される水産食材を食材商社等を通じてデイリー惣菜メーカー向けに製造・販売	当社 STIエナック STIミヤギ STI AMERICA Inc. STI CHILE S.A.	

グループ及び生産拠点

- STIフードホールディングス、連結子会社6社、孫会社1社、非連結子会社1社により構成。
- 工場ごとに得意分野や得意商品があり、それぞれ組み合わせることで3温度帯(チルド、常温、冷凍)のどれにも対応できる製造体制。



STIミヤギ　石巻工場・ヤマトミ第1、第2工場
食品　セブンプレミアム水産惣菜、缶詰、スモーク製品他
食材　おにぎり・弁当・パスタ・サラダ用食材

STIデリカ　白岡工場
食品　セブンプレミアム水産惣菜

STIフードホールディングス

STIフード　船橋工場
食品　セブンプレミアム水産惣菜

STIサンヨー　焼津工場・SPF工場
食品　缶詰・レトルト製品

STIエナック 関西工場
食品　セブンプレミアム水産惣菜

STIエナック　福岡第1、第2工場
食品　セブンプレミアム水産惣菜
食材　おにぎり・弁当・パスタ・サラダ用食材

海外拠点

STI AMERICA Inc.
水産原材料の検品・買付

STI CHILE S.A.
水産原材料の検品・買付

グループ会社一覧

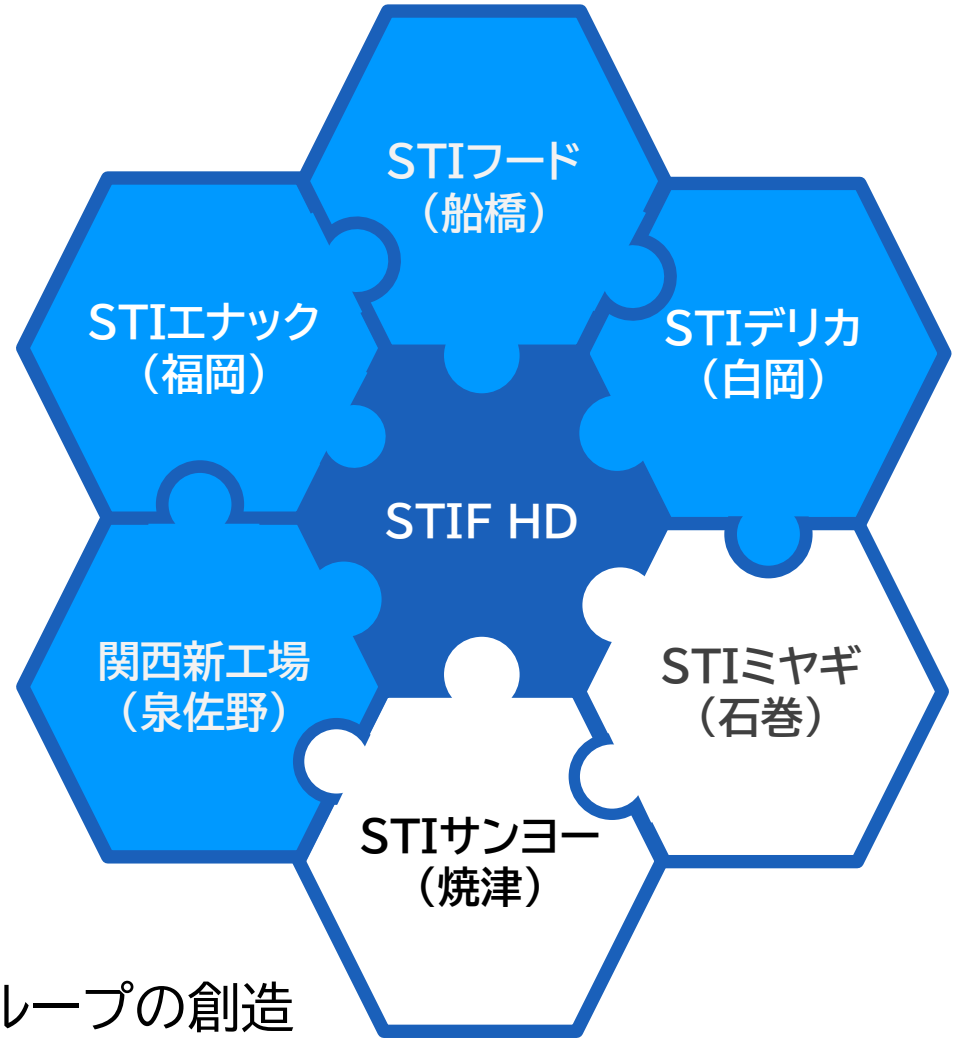
名称	所在地
㈱STIミヤギ	(生産工場) 宮城県石巻市
㈱STIデリカ	(生産工場) 埼玉県白岡市
㈱STIフード	(生産工場) 千葉県船橋市
㈱STIエナック	(生産工場) 福岡県糸島市 (生産工場) 大阪府泉佐野市
㈱STIサンヨー ㈱PAW'S GREEN	(生産工場) 静岡県焼津市
STI AMERICA Inc.	(本社) アメリカ　ワシントン州
STI CHILE S.A.※	(本社) チリ　ロス・ラゴス州

※:非連結子会社

グループシナジーによる生産工程・生産技術の創造

おいしさと経済合理性の両立

- ■原材料の品質に妥協しない
  （スペックダウンなし）
- ■複数拠点による製造最適化
  生産商品の選択と集中
- ■グループ各社の技術の**クロスオーバー**
  による付加価値の創出



- ■クロスオーバー技術による新しい商品グループの創造
- ■国内売れ筋商品をベースにしたグローバル商品の開発

事業の強み　～製造技術・特許～

新しい製法を研究し、参入障壁の高い技術をもって、世の中にないユニークな水産食品を開発

製法・技術へのチャレンジを加速

■ 賞味期限をさらに延長する新技術を開発中

2021年4月

カップサラダ・ガス置換技術

カップサラダ

- 魚介と野菜を使い、セブン-イレブンの人気商品に
- ガス置換パックにより、鮮度を維持
- 2021年4月/たことブロッコリーバジルサラダリニューアル（タンパク質を意識したサラダの投入）

2020年11月

ホットパック技術

紅鮭フレーク（特許取得済み）・熟成炙りたらこ（特許出願中）

- 一般家庭で魚を焼成し、手ほぐしして得られる手作りの魚肉フレークとほぼ変わらぬ食感、外観形状の鮭フレーク
- オーブントースターやグリル、フライパンで焼成して得られる焼きタラコと変わらぬ食感、旨味、風味の炙りたらこ
- この技術により全国各地へ食材を供給

2018年1月

三段階焼成・ガス置換パック技術

焼魚惣菜

- 家庭の焼きたての美味しさを封じ込めたセブン-イレブンの定番商品に
- 保存料を使用せずに、約10日間に消費期限の延長を実現（約3日間⇒約10日間）

2014年5月

生鮮イクラの静菌技術

味付けイクラ

- サーモン卵本来の美味しさを引き出すことを実現
- コンビニ向けおにぎり用味付けイクラのパイオニア

1997年8月

事業の強み　～一貫生産による「味」の品質向上～

■ 一貫生産（調理）の工程において徹底した温度管理と解凍回数の減少により、「味」の品質向上を追求する

焼魚惣菜の製造工程

規格原材料
- ■ 鮮度・サイズの追求
  - 鮮度、サイズの基準を厳格化

適正一次調理
- ❶ 食感の追求
  - スピーディーで正確な骨除去
  - 肉厚な切り身
- ❷ 旨味の追求
  - 熟成・発酵・干物化によって旨味アミノ酸の増加

最終調理（焼成）
- ■ 美味しさの追求
  - 業界唯一の三段階焼成
    - ① 遠赤外線焼成機
    - ② 過熱水蒸気焼成
    - ③ シュバンク

特殊包装
- ■ 美味しさの追求
  - “美味しさ”保持の実現

温度管理イメージ

解凍
チルド温度帯
適正温度
チルド温度帯
焼　成
差圧冷却
チルド温度帯

遠赤外線焼成機

過熱水蒸気焼成

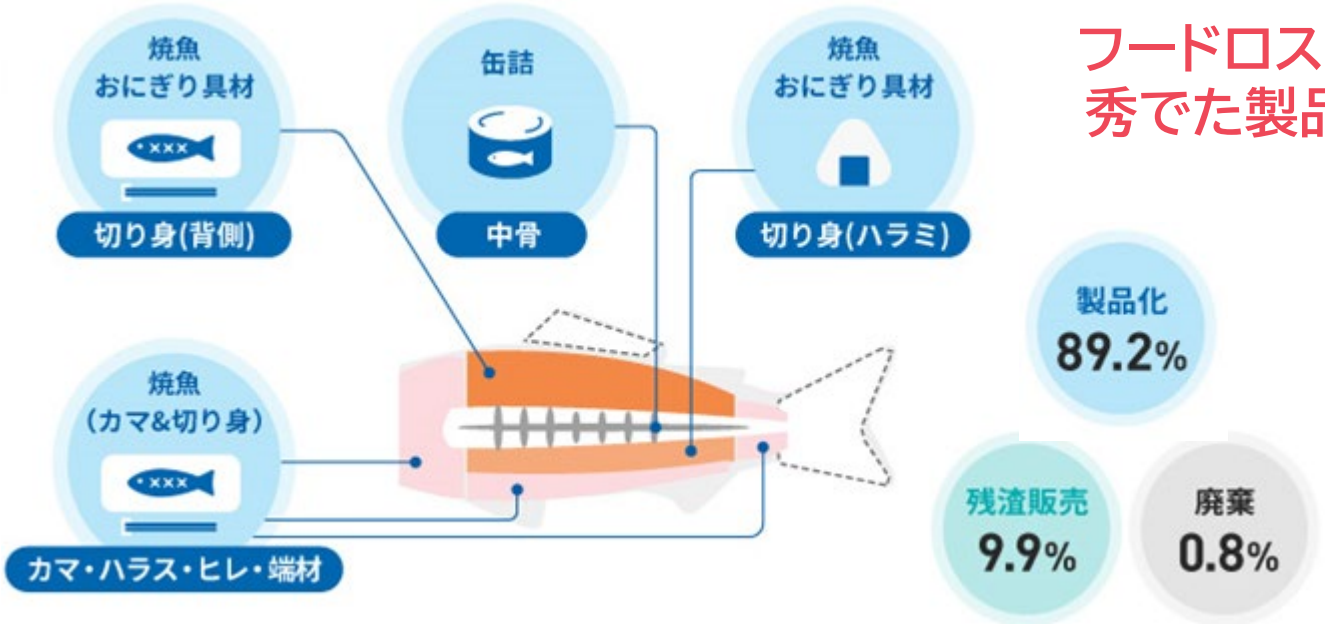
シュバンク（赤外線バーナー）

事業の強み　～フードロスとコスト削減の両立～

■ 素材を使い切る製品ポートフォリオによる徹底したフードロス対応で原材料コストを低減。

美味しさと原材料コストの低減を両立させる一貫生産体制

調達	一貫製造（一次調理・最終調理）	包装・出荷
■ 大型サイズに限定 ■ 南米チリにて頭カット ■ 凍結し工場へ搬入	■ 唯一の解凍工程 ■ 徹底した温度帯管理の下で調理	■ ガス置換パック技術で鮮度延長 ■ 全品目視にて検品

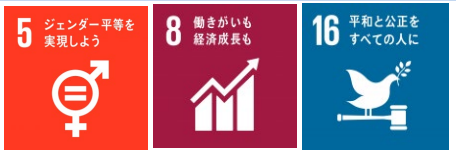


フードロス低減を実現する秀でた製品ポートフォリオ

ＳＤＧｓへの取り組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

調達・加工・流通・消費・廃棄までのすべてのバリューチェーンにおいて
環境や社会への負荷を軽減し、事業を通じて社会課題解決への取り組む

社会課題	取り組み内容	ターゲット
海の恵みを届ける責任	持続可能な原材料の調達 陸上養殖事業への出資	
食品メーカーとしての使命	フードロス・食品廃棄物の削減	
地球にやさしい事業活動	温室効果ガスの排出削減	
被災地域の復興支援	地域水産業の持続的成長支援	
人権尊重	グループ人権方針の策定	

東日本大震災で大きな被害にあった宮城県石巻の地元高校生と協力して復興を支援

2022-23年 プロジェクト

後継者不足が深刻な問題となっている水産業において、後継者育成など様々なチャレンジを進めている宮城水産高等学校と、石巻の魅力を食品を通し発信しているSTIミヤギが2022年5月より地元石巻を盛り上げるためプロジェクトを開始。

1年の準備期間を経て、原料の金華さばから水、塩、みそといった調味料、缶までを県産品にこだわった「オール宮城」をテーマに「金華さば缶」を共同開発し、2023年2月より東北地域で販売しました。

2023-24年 プロジェクト

水産高校の缶詰製造設備が故障したことで校内実習が困難になったことから、STIミヤギの工場設備を一部を貸し出しました。
生徒の皆様には本格的な設備で「さんま味付缶詰」を製造していただきました。

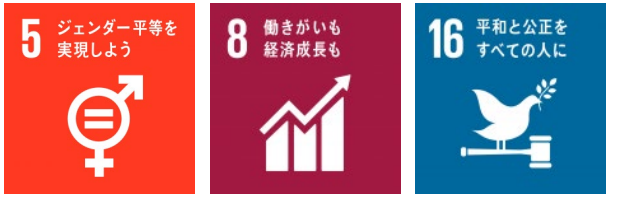
SDGsへの取り組み　－　グループ人権方針の策定

STIフードホールディングスグループは「国際人権章典（国連）」および「労働における基本的原則及び権利に関する宣言（ILO）」を最低限遵守されるべき原則・基準と理解し、支持します。
私たちは、これらの原則・基準に基づく「ビジネスと人権に関する国連指導原則」および「『ビジネスと人権』に関する行動計画（2020－2025）」（日本政府）に則り事業活動を行います。

グループ人権方針

STIフードホールディングスグループ（以下、私たち）は、お客様、お取引先、株主、地域社会、社員などあらゆるステークホルダーの皆様に支えられ、国内外の食料資源を通じて社会のより豊かな未来のために事業活動を行っております。
私たちのあらゆる事業活動の礎は人と社会にあります。
私たちはすべての人の人権を理解し、人権尊重の責任を果たすため、ここに「STIフードホールディングスグループ人権方針」を定めます。この方針は、STIフードホールディングスグループすべての事業活動の基盤であり、私たちの社是である「正々堂々」を体現するものです。
また、私たちは本方針の実践を通じて、ステークホルダーの皆様と協働し、人権が尊重される持続可能な社会を共創します。

※詳細は当社コーポレートサイトに掲載しております
https://www.stifoods-hd.com/ja/news.html



【ご注意事項】

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき当社が判断したものであり、マクロ環境や業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。

STI Foods Holdings,Inc.